

## VIDA DE SAN MILLÁN DE LA Cogolla I

Translated by Tsuyomasa Ota

### Abstract

It is believed that this work was written between 1230 and 1236, and probably the first work that the cleric Gonzalo de Berceo composed and narrates the life of the catholic saint San Millán (in Latin Sanctus Aemilianus). He was a priest and hermit, and founder of the benedictine monastery which bears his name. He lived between 474–574.

It seems that this work written in the erudite form of *cuaderna via* (four-fold way) is inspired by the hagiography in Latin by the bishop San Braurio de Zaragozan in the times of the Visigoths in the sixth century.



# 聖ミリャン・デ・ラ・コゴリャの生涯 I

ゴンサロ・デ・ベルセオ作 太田強正訳

作者 Gonzalo de Berceo は西ゴート支配時代に現在の Rioja 自治州 Logroño 県の Berceo 村に 1200 年の数年前に生まれ、「教養派文学」(Mester de Clerecía) の詩人として多くの作品を残した。これは中世スペインの主に聖職者による文学の流派で、読み書きのできない吟遊詩人 (juglares) による mester de juglaría と対をなすものである。

この作品は San Braulio de Zaragoza によってラテン語で書かれた聖人伝 Vita Beati Emilianii にベネディクト会の修道院の司祭であった Berceo が着想を得たものであり、cuaderna vía と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩で 13 世紀に書かれている。

この舞台となった修道院は San Millán (474-574)、ラテン語で Sanctus Aemilianus によって建てられたもので、ここで 10 世紀前半にスペイン語の最初の記録である Glosas Emilianenses (サン・ミリャン註解) が書かれた。彼は自分の建てたベネディクト会の修道院の司祭であり隠者でもあった。

今回は第 204 連までを掲載する。訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

本稿は BIBLIOTECA CASTRO の OBRAS COMPLETAS GONZALO DE BERCEO によるが英訳を参照した。

ここにラテン語からロマンス語に訳された聖ミリャンの物語が始まりま

す、それを書いたのはゴンサロ・デ・ベルセオ師です。

- 1      聖ミリヤンの生涯について知りたい者、  
         そしてその歴史について確かめたい者は  
         私が読み上げるのを望むこの事に心に向けるように  
         そうすれば人々がその宝をどこに伝えたのかわかるでしょう
  
- 2      悪魔を苦しめる私の信仰によると  
         ついにこの本を読み終えると  
         満足できる事柄を知るでしょう  
         そしてお金を払っても良いと思うでしょう
  
- 3      東側のコゴリヤの近く  
         サン・ロレント山（山脈の最高峰）の麓でナヘラから2レグワの  
         所に  
         現在マドリスのあるベルセオ地区で  
         聖ミリヤンは生まれました、これは確かです
  
- 4      生まれるとすぐ、両親は  
         布に包まれた赤子を教会に連れて行きました  
         そして法が命じているように、洗礼を求めました  
         司祭たちが赤子にそれを授け、聖油を塗りました
  
- 5      成長して歩けるようになるとすぐ  
         父は彼に羊の番をするように命じました  
         息子は従い、すぐに羊を見張りに行きました

羊飼いがよく身につける衣装で

- 6 非常な知恵者としてよく群の番をしてました  
羊飼いの習わしに従って杖を手に  
狼や悪質な盗賊をよく退けていました  
彼のもとで羊たちはとても喜んでいました
- 7 私があなたたちにお話しする羊飼いはもう一つの習慣をもっていました  
いつも習慣でキタラを持ち歩いていました  
眠気を払うために悪い敵が  
羊もヤギも彼から奪うことができないように
- 8 天の羊飼いが彼に特別の恵みを与え  
狼も害獣も彼に害を及ぼすことができませんでした  
自分の家畜を安全に囲い場に導き  
両親にはちゃんと仕えていました
- 9 しかし非常な知恵の持ち主である栄光の王は  
この仕事を他に変えることを望まれました  
彼を埃から立ち上げ、より大きな仕事を与えようと  
それを彼は神が望むとすぐに準備することになります
- 10 杖を持って山を歩き回り  
羊を導き自分の務めを果たし  
眠気に襲われながらも、頑固に務めていましたが

頭を垂れて眠ってしまいました

- 11 彼は楽しく優しい夢を見て神が望むだけ眠りました  
伏して寝ている間に神から靈感を受けました  
目を開けると、神に指示を受けていました  
世間から出るようにと、そして羊を忘れました
- 12 彼は世の中が欺瞞に満ちていることを理解し  
そこから離れて隠者になりたいと思っていました  
食べ物も着るものも持とうとは思っていませんでした  
その日が彼には一年よりも長く感じられました
- 13 彼は考えを思いつきました、全てに神が働いてくれました  
そのような生活を送るには、教育が不足していました  
彼は聖フェリクス<sup>1)</sup>がビリピオ<sup>2)</sup>に住んでいることを知りました  
聖人に会う時を心配はしませんでした
- 14 彼はそれを引き延ばさず、遅れさせようとしませんでした  
山から動き、下り始めました  
乾いた土地であるバルピリを通りました  
ビリピオに到着するまで
- 15 彼は城に入ると、城主を見つけました  
祝福された人、幸福な騎士  
高所で祈りを捧げている隠者を見つけたのです

その城主は修道士よりも謙虚に祈っていました

- 16 中に入るとすぐに、彼は城主の足元に身を投げ出し  
言いました：《お慈悲をください、心からお願いします  
私が世間から離れることは誓って約束されています  
私はあなたを師と仰ぎたい、そのために参りました
- 17 私はこの人生を他のものに変えたい  
魂を救うために一人で生きたい  
私はこの世の悪徳を振り払いたい  
そのためにあなたに助言を乞いに來たのです
- 18 私は文字は何も知りません、私に習わせてください  
聖なる信仰の根本が私は分かりません  
神父様、あなたの足元にひれ伏してあなたの慈悲を乞います  
この苦勞にあなたが手をお貸しくださるよう
- 19 それからもしあなたが私の出自を知りたければ  
私はマドリスの近くのベルセオで生まれました  
私の良き乳母がミリャンと名付けてくれました  
今まで私の生活は羊と共にありました》
- 20 この事で聖なる<sup>しあわせもの</sup>幸福者は大いなる喜びを得て  
神と聖マリアに感謝しました  
彼はこれがごまかしによってなされたのではなく  
神が薬で彼を癒してくれたと理解しました

- 21 城主は彼を喜んで受け入れ、任務に加え  
祈りを捧げるために詩篇を彼に示しました  
確固たる熱心さで彼を育てたので  
彼は完徳の形を理解しました
- 22 羊飼いはわずかな時間で詩篇を学び  
讃歌や雅歌を非常によく覚えました  
教え全てに通曉し  
師自身感嘆していました
- 23 知識を教え込まれるほど  
信仰に燃えていきました  
すでに彼は城の外に出ようと望んでいたのでしょう  
山に戻って、もっとひっそり暮らすために
- 24 彼が求めていたものを得て  
疑っていたものがすっかり確かめられると  
弟子は師に許可を求めました  
山にとっても帰りたかったからです
- 25 師は苦痛と大きな心痛のうちに  
許可を与えました、拒むことはできませんでした  
師は彼に然るべく祝福を与えました  
それは良き師が良き弟子に与えるものです
- 26 師はいつも留まる所に留まりました



弟子は山に帰ることになりました  
これ以上私たちは読むことも、見ることも決してできません  
両者が生きて同じ場所に集ったことを

27 彼の生まれたのはベルセオの近くで  
古い谷ラ・コゴリヤに近い所です  
当時そこはひどいヤブで  
蛇の棲家でした

28 谷の中央には幾つかの大きな岩があり  
岩の下方には非常に恐ろしい洞窟がありました  
そこには害獣の大群が住んでいて  
ゆっくり昼寝するには素晴らしい所でした

29 祝福されたその人は隠れるために  
約束しておいた誓いを神にたてました  
完璧な先導者である神のおかげで  
彼はあなた方が聞いた洞窟に入りました

30 猛獣たちは彼にひどく混乱させられ  
皆彼を前にして頭を垂れて逃げました  
好むと好まざるにかかわらず寝ぐらを変えて  
害獣たちは洞窟を離れたのです

31 人々は別のことを語っていますが、そのことは書きませんでした  
そして蛇たちが作った穴は見せています

それらがそこに居ることができなかった時には岩に穴を開けました

しかしこの良き人にはまったく恐怖を与えませんでした

- 32 その良き人は洞窟に一人留まりました  
良き騎士として主に仕えながら  
忠実な働き手として肉体を酷使していました  
どうしても報酬に価値がなかったのです
- 33 詩篇をすべて何時間もかけて良く祈っていました  
聖歌や讃歌やすべての連禱を  
毎日習慣で自分の詩篇集を唱えていました  
この労苦をすべてとても喜んでいました
- 34 この世から自由になったことを愛していました  
一時的な命にとてもうんざりしていました  
人生が終わることを熱望していたでしょう  
そして悪に満ちたこの流刑地から逃れることを
- 35 彼は親戚や隣人を忘れてしまっていました  
彼らが活着しているのか死んだのか覚えていませんでした  
というのは彼のすべての記憶、すべての気遣いは  
苦難にあった人々が憩う別の世のものだったからです
- 36 その祝福された人には、非常な苦勞でしたが  
確固たる学習もわずかなものに思えました

彼は時間を上手に使い、よく勉強していました  
 彼が得た教義を狭めたりしませんでした

- 37 良い畑を作り、良い種をまいていました  
 土地は良いもので、良い実りを期待していました  
 右手の与えるものを左手は知りませんでした<sup>3)</sup>  
 神が彼を導いていたので福音に従っていました
- 38 その良き人は多くの願いをしました  
 神が過てる者たちに折り合いをつけ  
 良き者たちを支え、苦しむ者たちを救ってくださるように  
 悪い敵に欺されないために

- 39 完璧な善良さを持ったこの完成された人は  
 知性は老人、年齢は若者で  
 この世の命を非常な神聖さで生きていて  
 その善良さを半分も語ることはできないでしょう

- 40 しかし彼は隠れ、遠ざかることを望んでいましたが  
 その名声は世に出ようとしていました  
 というのは創造主がそのことを認めるはずがなかったからです  
 そのような大きな光が隠れることを

- 41 リオハ<sup>4)</sup>の人々の間に彼の名声が鳴り響きました  
 荒れ野の知らせが平地に届き  
 このことで病弱な者も健康な者も動きました

この聖なる男に会ってその手に接吻するために

- 42 山は深く、その場所は恐ろしいもので  
どうにもものすごく、危険でした  
誰も快適な場所だとは思っていませんでした  
その断固とした羊飼いを除いては
- 43 この聖なる人は自分は見つかると思いました  
見つけた者を嬉しく思いませんでした  
そのような騒ぎがなく彼を放っておいてくれれば生活できたでしょう  
宣言したように詩篇を唱えながら
- 44 この隠者はこの騒ぎに邪魔されました  
このような行列にひどく腹を立てました  
というのは人生を別な風に定めていたからです  
彼は世の名声をあまり気にしなかったのです
- 45 彼は蛇たちと共に生活する方をより好んでいました  
それらが怒りっぽく、にがい歯を持っていたも  
洞窟の周りに多くの人々を見るよりは  
なぜならそのために自分の親類を忘れて去っていたので
- 46 彼は雑音から逃れることはできないのが分かりました  
もしその住処に住みたいのなら  
そのために洞窟を出なければなりませんでした

進んで誓いを破りたくはなかったからです

- 47     それ故洞窟から移動しなければなりませんでした  
       誰にも分からないように  
       そしてもっと良く隠れるように山に入りました  
       山の獣たちと生活を共にするために
- 48     聖なる信仰に強められたその人は  
       神のみと親交のすべてを持ちました  
       苦しい生活を送り、厳しい節制をし  
       世の悪徳をひどく嫌悪していました
- 49     山を、険しい所を歩き回りました  
       急な坂道を、とげのある所を歩き回りました  
       今日でも祭壇が見えます  
       彼の聖なる指がその時作った祭壇が
- 50     雪も氷も恐ろしい吹雪も  
       疲労も飢えもひどい嵐も  
       寒さも暑さも、こういった事どもも  
       彼を藪の中から引き出すことはできませんでした
- 51     その思慮深い人は決して顔を背けず  
       得た物すべてのうち一つも失いませんでした  
       さらに進歩し、常により果敢になりました  
       このため悪魔は非常に大きな不満を抱いていました

- 52 呪われた獣は色々試してみました  
その聖なる隠者の生活を邪魔するために  
しかし神の聖なる、祝福された力は  
人が自分の瞳を守るように彼を守りました
- 53 悪魔は多くの方法で彼に戦いを挑み  
彼の行く所どこでも戦線を開きました  
しばしば道で彼を襲いましたが  
彼には効き目がありませんでした
- 54 そのキリストの良き僕<sup>しもべ</sup>はそのような苦難を背負いながら  
荒れた山々を肉体を苦しめながら  
コゴリヤに行きました、ずっと登りながら  
彼は登れば登るほど進歩していきました
- 55 彼の聖なる生活について誰があなたたちに語れるでしょう  
誰も想像することも考えることもできないでしょう  
誰も理解できないでしょう  
自分自身それに耐えた人を除いては
- 56 その孤独な隠者は山々を歩き  
丘の頂上にあるコゴリヤに登りました  
そこでその聖なる騎士は大変な目に遭いました  
強烈な嵐と不倶戴天の戦士に
- 57 今日ではまだ破壊されないで

彼が作ったと言われる礼拝堂があります  
 そこで彼は神に自分の肉体の権利を与えていました  
 それをひどく苦しみ、粗末な床に寝て

- 58      彼は望んでいたでしょう、もし天の王がそれを望むなら  
 そのような高い丘に登って以来  
 死すべき肉体の重荷を断ち切ることを  
 そのことを神は遠い日に置きました
- 59      その良きキリスト教徒は祈って言っていました  
 《栄光の王である主よ、私の願いを聞いてください  
 私をこの苦難、このような激しい苦しみから救ってください  
 私はあなたのお顔を望みます、他の物は望みません
- 60      あなたがこんなに高くに私を導いて以来  
 ここからは全地が海までが見えますが  
 もしあなたの恵みを私に下さるのなら  
 主よ、私はここで喜んで死にたいと思っています
- 61      もしあなたがこれを許し認めるなら  
 丘から谷へ戻りたいと思います  
 しかしもしあなたが別のことを望み、私に留まるようお命じにな  
 るなら  
 私は難儀してもあなたの恵みを期待したいと思います》
- 62      それ以来好機に生まれたその良き男は

人に見つからないように  
丘を変え、他の小山を探しました  
というのは神に仕えることに疲れてはいなかったからです

- 63 彼は一人で四十年間山で暮らし  
一度も気晴らしや仲間を持ったことはありませんでした  
食事もとらず、衣服もまとわず、そのことが最大の功ですが  
スペインにこのような貴重な証聖者が生まれたことはありません  
でした

- 64 この聖人が歩いた山々は祝福され  
彼の隠れていた谷々も祝福され  
彼がその下に留まった木々も祝福されました  
というのは彼は祝福に満ちた天使のような存在でしたから

- 65 彼は神に非常に愛された聖なる被造物で  
説教をまったく聞くことなしに神に啓示を受けました  
彼は非常にひどい苦難をととても長い間被り  
神に導かれたのは目に明らかです

- 66 神に導かれたということは大変なことだと思われます  
そうでなければ、あのようなひどい寒さには耐えられなかったで  
しょう  
あのようなひどい日々にも、あのような恐怖にも  
しかし神はすべてにおいて彼の神聖な助けでした



- 67 彼は人々から逃れて歩き通すことができました  
 雑草を食み冷水を飲みながら  
 そしてひどい夜を過ごしてモンカヨ<sup>5)</sup>にやって来ました  
 歩き、休んで常に順調に登り続けたのでした
- 68 私たちはあなたたちに彼のすべての徹夜をお話しすることは  
 できないでしょう  
 また彼が宿泊したすべての場所も  
 私たちはあなたたちに彼の強行軍のことは省いて  
 彼を荒地から人の住んでいる土地へと連れ出したいのです
- 69 何も忘れることのない天の王は  
 人が考える前に事を知っていて  
 価値ある生活を送る彼の僕<sup>しもべ</sup>の名声が  
 山に隠れてしまうことを望みませんでした
- 70 四十年の年月は彼から何も取り去りませんでした  
 その間この非常に厳しく辛い生活を続けていたのです  
 最後に神は彼にひどい罫を仕掛けました  
 仕掛ける事が必要だったのでしょう
- 71 タラソナ<sup>6)</sup>と呼ばれる町は、正義の町です  
 三つの王国の間に位置して、皆その境にあります  
 アラゴンとカスティリヤ、そして三番目はナバラです  
 その町を知る者は言うでしょう、《それは本当のことだ》と

- 72     その町にいた他の貴族たちについて  
          あなたたちにお話しするのは退屈でしょう  
          司教の事に話が戻るのは私たちの意思です  
          彼は賢く善良さを愛する人でした
- 73     彼の名前はディミオで、書がそう記しています  
          良く教育を受けて、節度を知っていました  
          私は誇張なしに誠にあなたたちにそう言います  
          彼は我々皆に非常に大きな幸運を願いました
- 74     その町の司教であるその忠実な聖職者は  
          確かな報告を持っていて、秘密を知りました  
          彼に書状を送り、友好の頼み事をしました  
          神の慈悲によって目が見えるようになることを
- 75     その聖なる証聖者は祈っていました  
          創造主に祈り、願っていました  
          彼の上司である司教から命令が来ました  
          その良き人はその事にあまり喜びませんでした
- 76     その聖なる人は激しく泣き始めました  
          このやり方には非常に大きな苦痛を感じていましたから  
          大きな強制が彼を動かしました、罪を犯すことを恐れていたので  
          もし服従することを軽視しようとしたら
- 77     着られる服で動こうとしました

どこからそれを手に入れることができたのか私はあなたたちに言うことができません  
彼はいつもいる山から下りて  
町へ歩き始めました

78 彼は頭を低くして町に入りました  
髭を非常に長く伸ばし、ボサボサの長い髪の毛で  
人は皆各々自分に言いました  
あのような荒々しい男は聞いたことがないと

79 その聖なる隠者は非常に丁寧に迎えられました  
司教が彼を見ると救われたと思い  
彼が良い理解力のある人で  
従順にやって来たのだとはっきり知りました

80 《兄弟よ、一と司教は言いました—私はあなたに感謝します  
なぜならあなたは私の命令にこんなに良く従ったのですから  
しかし私はまだ良く知らされていないと思います  
もし私があなたのことをもっと確信してないとすれば

81 どうかお願いですからお頼みします  
あなたの名前とあなたが被ったことを私に言ってください  
あなたがどの生まれなのか、どのようにして隠者になったのか  
を教えてください  
というのは隠れている利点があなたにはないからです》

- 82 聖ミリャンは願い事に圧倒され  
こんな困ったことになるとは思いませんでした  
彼は敢えて命令に異を唱えることができませんでしたが  
司教にまったくの完璧さで答えました
- 83 彼は司教に両親がどの町の出なのか言いました  
学校でいかに聖フェリケスが彼を教えたのか  
山にいた歳月に  
その間どんな食べ物が彼を支えたのかを言いました
- 84 《天の王の》—と司教は言いました—《おかげで  
その方は世にこのような貴重な印を示しました  
この宝は並の価値ではありません  
その方から我々はこのことを知り、さらに他のことも知るでしょう》
- 85 《兄弟よ》—と司教は言いました—、《あなたのことを私に良く話  
してくれました  
今とても満足しています  
あなたが天国で大きな褒美に与るに値することが分かります  
この世でひどい苦しみに耐えたのですから
- 86 しかしあなたが苦難を終わらせ  
創造主からより大きな恵みを得ようとするなら  
あなたに助言したい、あなたはそれを受けるべきです  
\*あなたが神のために司祭になることを望むように

- 87      もしあなたが叙階して、ミサを挙げるなら  
神の聖なる教会においてあなたの務めを果たすことになり  
男女の多くの魂を救うことになるでしょう  
もしあなたが私を信じることを望むなら、それを延ばすことはし  
ないでしょう
- 88      あなたは福音を聞き信じなくてははいけません  
儲けを生まない金を渡してはいけません  
あなたの魂を仲間のキリスト教徒のために傾けなくてははいけませ  
ん  
そうしなければ神はあなたに大きな不満を抱きかねません
- 89      ある者を助言で、ある者を祈りで  
またある者を行いで、またある者を説教で  
あなたは多くの魂を牢獄から解き放つでしょう  
それであなたは神から大きな褒美を受け取るでしょう》
- 90      その聖なる人は答えました、彼に従順でした  
《ご主人様、一と彼は言いました—喜んでそう致しましょう  
全能なる王が我々の仕事を導いてくださいますように  
彼は東方の三人の博士を導きました》
- 91      聖なる人はすぐに剃髪され  
髭を剃られ、より良い服装をさせられました  
その聖証者に四つの階位が与えられました  
後により権威のある他の階位も

- 92 価値ある証聖者は叙階すると  
良き聖なる司教に許可を求めました  
許されれば行きたいと  
彼が育ったベルセオ地区に
- 93 司教から許可をもらうと  
祝福を受けてタラソナを離れ  
その高潔な人は道に就いて  
自身の住処のあるベルセオにやって来ました
- 94 その苦行者がベルセオに来ると  
彼の年代の者たちは彼が判りませんでした  
ある者たちは喜び、他の者たちは違っていました  
しかし聖職者たちは彼を聖職禄で迎えました
- 95 サンタ・エウラリア<sup>7)</sup>で苦行者は聖職禄を受けることになりました  
良い仲間を迎えて、参事会はより価値が出ました  
その高潔な牧者は自分の民をよく導いていました  
報酬や金目当てではなく
- 96 隠者は司祭たちの間に健全な教義を広めました  
彼らの間には狂気をもたらしうなものがあつたからです  
彼は信徒や司祭たちと毎日苦行に励みました  
彼らを皆より良い方に向かわせようとしていました

- 97 隠者は修道会が命じる自分の務めをよく果たしました  
新人でしたが、師のように見えました  
聖ミリャンは決して飽くことなく神に仕えていました  
しかし他のことにおいても、施しには励んでいました
- 98 神が彼に与えた物をすべて彼は貧者に分け与えました  
その完璧なキリスト者には明日は心にはありませんでした  
自分の苦しみを彼に相談した者は  
彼から別れると満足して帰って行きました
- 99 もしキリストに、その聖なる力に気に入ったなら  
すでに始まっていたように車が回ることが気に入ったなら  
ベルセオの町はとても幸福だったでしょう  
しかし間もなく事は変わりました
- 100 その聖なる人は神に氣にいるように努めていました  
つみびと  
罪人を改心させ、貧乏人に食べものを与えて  
しかし司祭たちの間に嫉妬が生れることになりました  
それはルシフェルを地獄に落としたものです
- 101 彼らのうちの何人かは嫉妬を抱いていて  
その悪者たちは悪い毒に侵されました  
その愚か者たちは彼のせいにしました  
彼のしたことも考えついたこともない罪を
- 102 詐欺師だと言って彼を非難しました

共有の財産を浪費していると言って  
その聖なる証聖者は彼らの心を理解しました  
彼らがそのような悪い間違いを犯すので彼は非常に心を痛めました

- 103 彼は心の中で言っていました、《ああ、栄光の父よ、  
あなたは力ある王として望むところをなさいます  
常に私はこの汚れた世から逃げたいと思ってきました  
というのはそれが邪悪で危険だと知っていたからです

- 104 主よ、私はあなたからこのことを勝ち取ることができませんでした  
私の罪のためにそこに帰らなければなりませんでした  
あなたに仕える代りに私はあなたに大きな苦悩をもたらしています  
人々が私のために罪を犯さなければならないときに

- 105 主よ、もしお望みなら、私はとても望んでいます  
今までのように一人で生きることを  
私は喜んで隠者の生活に戻りましょう  
というのは私はこの聖職者たちにひどく怒っているからです》

- 106 その祝福された司祭で正しい聖職者は  
禄を受けていたサンタ・エウラリアから  
去って行きました、密かに、ただ一人で  
そして以前住んでいた洞窟に戻りました



- 107 彼は自分の任務を果たすためそこに小さなチャペルを作り  
その近くに自分の房を建てました  
それは狭く小さな家でしたが  
貴重な宝で一杯でした
- 108 皆さん、神のおかげで私たちはあなた方にお話ししました  
彼の聖なる苦難について知り得たことすべてを  
わたしたちが読んでいるように、彼の活動についても  
お望みならばただ今からは休憩する時です

## 第二の書

- 109 皆さん、さらに私に話しを聞きたいのなら  
第二の書がすべてが話されるべきです  
私はあなた方にわずかな奇跡の話しをしたいと思います  
それらは神が彼によって世にお示しになったものです
- 110 数が多く数え切れないほどですが、もし神が我々に寿命を与えて  
くれるなら  
それらの大部分を我々はあなた方に話すつもりです  
彼のこの移動の後に起こったことの大部分を  
彼の魂が肉体を離れる前に
- 111 ベルゼブブ<sup>8)</sup> は、アダムを騙したものですが  
自分がこの優れた人から非常に馬鹿にされていると思っていました  
というのは彼を何回も襲いましたが

いつもその戦いに敗れ去っていたからです

- 112 この呪われた獣は策略に満ちており  
肉の形をとり、人間の姿をしていて  
狭い道で彼の前に立ちはだかり  
強烈な恐ろしい言葉を投げかけました
- 113 《ミリャン、一と悪魔は言いました—お前には悪い習慣がある  
お前は非常に変わりやすく、一貫性がない  
言葉ではお前は大人しいように見えるが  
お前の行いはひどい中傷よりも苦痛をもたらす
- 114 お前が最初にこの地に來た時  
そこが気に入らず、去ろうとした  
私に戦いを挑むためにお前は山に入り  
決して人里には戻りたくないと言っていた
- 115 結局お前が死に近づいた時  
人里にひどく戻りたくなり  
ベルセオに戻り、そこに少しいた  
お前の評判にその修道院はあまり喜ばなかった
- 116 お前は大いなる気まぐれからサンタ・オラリアを離れた  
立ち去る時にお前は礼を言わなかった  
今でもお前は他の人里を望んでいる  
私がお前にそれを認めたら、私はよほどの馬鹿だと思う

- 117 お前に一言、考えてあったので、言おう  
この住処を誰が取るのかお互い戦おう  
倒れた方が当然それを去り  
戦いが済んでもう一方が落ち着くように》
- 118 邪悪な悪魔はこう言うと  
その聖なる人に怒りの手を置いて  
彼に抱きつき、彼を騙そうとしました  
しかし何の役にも立ちませんでした
- 119 その価値ある証聖者は祈りを唱えました  
《主よ、あなたの僕たち<sup>しもべ</sup>のために受難されたあなたが  
今日はこのように強力な獣<sup>けだもの</sup>から私をお守りになりました  
彼が破れ、私が傷を負わないように》
- 120 ミリヤンが祈りを終えるや  
悪魔は力をすべて失いました  
彼の大きい尊大さは落ちて塵となり  
来ても何にもなりませんでした
- 121 悪魔は大きな埃をたて、すごい竜巻になりました  
ひどく破れて逃げ、言いました《ああ、ひどいことだ  
私はいつも言うのを聞いていた、そして私に起こった  
悪い隣人を持つ者には悪い日が明けたと》
- 122 悪魔は逃げて、知らない土地へ落ちて行き

価値ある証聖者は自分の山に残りました  
世があり、スペインが続く間  
この勲しはいつも語られることでしょう

- 123 その良き戦士は全勝利において  
自分自身に慢心の入る道を与えませんでした  
自分の行く道をよく守り、よく記憶していました  
一時的な命が彼を欺かないように
- 124 彼は二十本のすべての指の爪で創造主に仕えていました  
足と手と口と耳で仕えていて  
悪魔にしっかり道を閉じていました  
というのはその道のために羊たちが御父を離れるからです
- 125 彼はこの戦いをそんなに隠しておくことはできなくなり  
人々にすぐには知られなかったので  
人々はただ驚嘆していました  
この良き男がこのような優れたことをしていたので
- 126 その地にひどい苦難にあった修道士がいました  
彼は長い間床についていて、とても苦しんでいました  
腹が体液で非常に膨れ上がり  
人々はすぐに死ぬのではないかと考えていました
- 127 その病人はアルメンテロという名でしたが  
医者たちは彼の少しの助けにもなりませんでした

一人の使者がこの聖なる人について隠者に知らせをもって来ました

以前のように彼を元気にしてやると

- 128 その病人を愛していた男たちが彼を連れて  
長患いに動揺して  
彼を評判の司祭のところに連れて行きました  
そこで彼の苦しみを終らせると思っていたからです

- 129 聖性に満ちたこの聖なる人は  
ひどい病のこの病人を見ると  
情け深かったので彼を憐れみ  
心から彼のために神に祈りました

- 130 それからその完全なキリスト教徒は十字を切りました  
その聖なる手で病人の腫物の上に  
すると病がたちまち体から逃げていき  
病人は全快して自分の居場所に帰って行きました

- 131 アルメンテロがそのように回復すると  
すぐに土地々々に非常に大きな噂が広まり  
皆が主なる完璧な王である神を祝福しました  
なぜなら神が彼らにそのような高い才能を持った聖職者を与えて  
くださったのだから

- 132 彼の奇跡のうち三番目のもので

麻痺した女性についてあなた方にお話ししたい  
彼女は全身麻痺で自由が利きませんでした  
歩くことができないので横たわったままでした

- 133 人々が語るこの名声に  
親戚がこの病気の夫人を連れて  
その凄腕の司祭のところに行きました  
彼は悪魔を追い出し、蛇に打ち勝ちました
- 134 この苦難の病人は門のところに置かれました  
病と苦難にひどく打ちひしがれていて  
哀れな女は地面にうつぶせになっていました  
まっすぐ立つことがまったくできなかったからです
- 135 その祝福された人は住居を出て  
この重篤な女の病人を見ました  
《創造主よ、一と彼は言いました—この哀れな苦しんでいる女を  
お助けください  
彼女が陥ったこの苦悩から解放してください》
- 136 彼は熱心に神に願ってから  
その聖なる手を広げて彼女を祝福しました  
病人は苦難から解放され  
病が癒えて家へ帰って行きました
- 137 彼の聖なる生涯について我々が読むところによると

この治癒した女性はバルバラという名で  
アマヤ<sup>9)</sup>の地の生まれだということです  
ブラウリノ<sup>10)</sup>がそのように述べ、彼は真実を記しました

- 138 そのペニャ・レアル<sup>11)</sup>と同じ土地で  
体が麻痺したその地の生まれの女性がありました  
足を動かすことができませんでした、子供の頃からそうでした  
千マルコ<sup>12)</sup>もらっても寝床から裏庭まで行けなかったでしょう

- 139 この病人がこの嬉しいうわさを聞いた時  
この修道士がいかにして多くの人を治したかといううわさを  
この哀れな女は大声を上げました  
彼の衣服に触りたいと言って

- 140 彼女は彼の衣服に触れることができれば  
彼女の信仰によればすぐに癒されるだろうと言いました  
彼女は彼の足元に自分を置いてくれるよう願いました  
帰る時には助けは要らなくなるだろうから

- 141 すぐにその若い女は男たちに伴われ  
小さな荷車に用意周到に乗せられました  
男たちは彼女と共にカスティリヤを横切り  
価値ある庵の入口のところにやってきました

- 142 たまたま入口が閉まっているのを見ると  
その病に苦しむ女は非常に大きな声を上げ

願いました住居の主である神父に  
神がそのような価値ある力をお与えになった方に

- 143 その聖なる証聖者は習慣で  
最も重要だと言われる四句節の間ずっと  
誰ともしゃべらず、働きにも出ませんでした  
聖なる復活祭が終わるまでは
- 144 その上この期間この良き隠者は  
閉じた洞窟の中で囚人のように暮らしていました  
聖なる教えを受けた司祭が彼に仕えていて  
小さな穴を通して食べ物を与えていました
- 145 正にそのような時にその病人が連れてこられました  
入口のところに横たわって、激しく泣いて  
というのはその聖なる信心深い人が葛藤しているのを見たからで  
す  
パンと水だけで鰻もマスも口にしないで
- 146 その哀れな女は洞窟のところに行き  
《ご主人様—と言いました—そして閉じこもっている神父様  
この哀れな女を、この苛まれた体をお救いください  
足の力を奪われた体を
- 147 もしあなたが出て来たくないなら、あるいはそうできないのなら  
あなたがよく携えている杖を私に送ってください



もし私がそれに接吻するか触れることができたなら  
すぐに治ると確信しています》

148 彼女の苦痛と哀れみがこの良き男を動かししました  
彼は彼女のために心から神に願いました  
そして非常に聖なる棒であるその杖を彼女に送りました  
彼はそれにすがって非常に疲れた時に耐えていたのです

149 その哀れな病人が杖を見ると  
自分は女王よりも恵まれていると思い  
言いました、《今私にははっきり薬が見えます  
それが私を神の恵みで癒してくれるでしょう》

150 彼女はすぐにその杖を取り、接吻し始めました  
一回でなく何回も、責めるべきではありませんでした  
くれと頼んでも、杖を放そうとしませんでした  
しばらくの間彼女の目は休みなく涙していました

151 聖ミリャンが唱えた聖なる祈り  
そしてその中で煮えたぎっていた聖なる信仰が  
主のいる天を突き抜けました  
その手の中にすべての治療薬があったのです

152 神が非常に愛していたその良き僕しもべのために  
神は彼が求めていたものをその婦人に与えました  
彼女が捕らわれていた苦悩から彼女を解き放ったのです

そのような力が湧き出た器が祝福されますように

- 153 その後喜び満ちたその若い婦人は  
彼女を治した癒し手に別れを告げました  
彼女は祝福を受けて故郷に帰り  
神とその聖なる力を讃えました
- 154 善人で裕福で有力者のシコロオは  
彼の用を足す女中を持っていました  
彼女は視力を失い、そのことで彼は悩んでいました  
というのは彼女の良き奉公を受けられなくなると思ったからです
- 155 彼女を他の人々を治していた医者のところへ送りました  
彼女を治せるだろうと固く信じていました  
彼女は見えなかったので導かれて  
光を求めて聖堂にやって来ました
- 156 聖ミリヤンが彼女を見ると、深く悲しみ  
彼女に光を与えてくれるよう創造主に願いました  
聖なる証聖者が祈ると  
彼女の視界がかつてないほど明るくなりました
- 157 聖ミリヤンがこれを成し遂げると  
悪魔に憑かれた一人の司祭が連れてこられました  
彼は教えに基づいて司教によって叙階されましたが  
仲間内では避けられていました

- 158 悪魔は彼にとんでもない気違い沙汰を口にさせていました  
言葉と共に彼は他の恐ろしいこともしていました  
彼の病気は多くの悪い性質を持っていました  
それでその病人は多くの悪い顔をもっていたのです
- 159 聖なる人は非常に怒った悪魔を見て  
神に向かって言いました、《ああ、栄えある王よ、  
この聖職者を憐れんでください、あなたは憐れみ深い方なので  
から  
このような残酷な客を宿すことのないように》
- 160 悪魔はその祈りに耐えることができず  
まったく混乱してその助祭から離れました  
その助祭は祝福を受けて  
自分の教会に全快して帰りました
- 161 トゥエンシオは知られた名前の持ち主でした  
彼は良識のある良い習慣の持ち主でしたが  
彼の愛する奴隷の一人が非常に困った問題を抱えていました  
悪魔にすっかり取り憑かれていたのです
- 162 この病人は神の僕<sup>しもべ</sup>の所に連れてこられました  
トゥエンシオは必要に迫られて彼を送りました  
聖ミリャンは彼を見て、喜んで受け入れました  
非常に苦しんでいたので彼にとっても同情しました

- 163 聖ミリャンが習慣通り彼のために神に願うと  
悪魔たちが不思議な苦しみ方をしました  
彼の真摯な心からの聖なる祈りが  
大きな焚き火よりも悪魔たちを燃え上がらせました
- 164 聖ミリャンは振り返って悪魔たちに何人なのか尋ねました  
仔細と名前を知りたかったからです  
しかし彼らの一人が答えることになりました  
彼は全部本当のことを言いましたが、聖ミリャンが知りたい事は  
言いませんでした
- 165 悪魔は聖ミリャンに言いました、《ここに住んでいるのは私たち  
五人です  
私たちは斯々然々の名前を持っていて、斯々然々の主人に仕えて  
います  
私たちは長い間ここに一緒にいます  
しかし私たちが恐れたように、あなたが私たちを動かしました》
- 166 良き男は言いました、《良くないことです  
このような不適當な住処に、このような邪惡な客がいるとは  
ここは神聖な聖油のある神の家です  
こんなに長い時間冒瀆されていたのは悪いことです》
- 167 彼はその病人にその巧みな手を置き  
額の最も平らな所で十字を切ると  
卑しい悪魔の一団はまったく混乱して出て行きました

そしてトゥエンシオの奴隷はすっかり癒されたのです

- 168 聖ミリャンは彼にどう生きるのか、間違いじみたことなど愛することがないように命じ

彼を祝福すると、彼は直ちに道に就きました

良き人は隠者の庵にあって

乙女マリアから生まれた方に仕えていました

- 169 すぐに別の悪魔憑きが彼の所に連れてこられました

有力者のエウヘニオの奴隷でした

その奴隷は高潔な証聖者の足元に身を投げ

取り憑かれているので助言を請いました

- 170 聖ミリャンは魂の主は彼のために願ひ

彼の額に聖なる印である十字を切りました

その病人は癒され、悪から清められました

彼は神を賛美し、回復して住まいに帰って行きました

- 171 プロセリアと言う夫人が悪魔に憑かれていました

二人の強力な悪魔にひどく悩まされていました

彼女には祝福されて結婚した良き夫がありました

しかしその良き男にはひどい欠点がありました

- 172 その良き男はネボシアノという名で

二重に悪魔に憑かれていて、それ故健康ではありませんでした

悪魔は互いに日々襲い合い

冬も夏もひどい苦難の中にありました

- 173 これらの悪魔たちには皆特徴があり

彼らは兄弟のようで、あるしぐさをしました

彼らは交互にあることをしました

彼らのすべての振る舞いは似通っていました

- 174 人々はベルセオの生まれの証聖者のところに行きました

戦いでベルゼブブを破った人です

証聖者はすぐに彼らが動揺した様子なの分かりました

彼は彼らが健康になることに大きな望みを抱いていることが分かりました

- 175 証聖者は悪魔がどのように二重になっているのか理解しました

汚れた悪者たちがいかに似ているかを

証聖者は彼らの罪を許すように天の王に願いました

こんなにひどく扱われた者たちの助けになるように

- 176 聖ミリヤン・デ・ラ・コゴリヤが祈りを終わるとすぐに

神から治癒が与えられました

プロセリアは癒され、ネボシアノは回復しました

神が私たちにそのような司祭を通してお恵みを与えてくださいますように

- 177 別の悪魔憑きはコロンバという名でした

マクシモの娘で、これは実際確かなことです

非常な苦難を抱えていて、苦しい生活を送っていました  
死ねば幸いだと思っていました

- 178 その夫人は聖なる修道院に連れてこられ  
価値ある聖証者にその苦しみを語り  
彼に自分のために詩篇を唱えるように頼みました  
このような大きな苦しみから解き放ってくれるように
- 179 その良き人は祭服を身にまといました  
それをまとしてミサを挙げるのがきまりになっています  
彼は彼女の健康を得るために聖なるミサを挙げました  
というのは喜んで彼女を健康にして送り返したかったからです
- 180 聖ミリャンがミサを終えると  
悪い敵は住处を出ていきました  
彼の聖なる手で彼女に祝福を与え  
病が癒やされて彼女を送り出しました
- 181 バルバリナス<sup>13)</sup>の出身の高貴な元老院議員がいました  
名をオノリオと言い、非常に力のある人物でした  
彼はこれ以上ないほどの非常な癩癪持ちで  
その事をあなたたちに話すだけで後味が悪くなります
- 182 この有力者の家に住んでいました  
悪意に満ちたたちの悪い悪魔が  
悪魔は住まいの中で不潔極まりないことをして

その住まいをあたかも自分の物だと思っていました

183 オノリオが動物の内臓を切り裂き

どんな物でも食べようとした時

その呪われた獣がひどくふざけて

その中に糞と汚物を投げ入れました

184 彼が水かぶどう酒を飲もうとした時

その裏切り者の隣人はそれをぶちまけました

彼は家を毒よりもひどい臭いで満たし

執達吏や監督官よりも困らせました

185 助言も方策も見つかりませんでした

悪魔をその家から追い出すための

人々はあなたがたが聞いているこの苦しみの中に生きていました

もう少しで破滅するところでした

186 ドン・オノリオは良い事を思いつきました

聖なる小礼拝堂に巡礼に行くことです

その土地の守護の聖人である聖なる人物に祈ることです

皆その人に健康と助けを見出していました

187 聖なる神父のところにやって来て、巡礼を果たしました

跪いて庵に入り

苦悩のうちに生きてきた戦いを彼に話しました

神と聖マリアが彼を助けてくれるように



- 188 その聖なる人はその厄介事と方策を理解しました  
杖をとって出かけて行きました  
華奢な体型でしたが獣に乗るつもりはありませんでした  
そのようなことには意思を持っていましたから
- 189 その価値ある人はパルパリナスに入りました  
入るとすぐ説教をして  
その家のすべての者に命じました  
大きな苦痛を伴う三日間の断食をするように
- 190 その聖なる命令は着実に実行され  
皆パンと水と粗末な衣服で過ごしました  
悪魔は思いましたこの苦行のすべては雑音だと  
自分の苦難と間の悪い訪問のせいだと思いました
- 191 その三日が過ぎて、断食が終わると  
その高潔な証聖者は聖なるミサを挙げ  
塩と水を聖別し、聖務を唱えました  
この知らせに悪魔は非常に苦悩しました
- 192 どこか窪地に隠れようと思いました  
昼食時も夕食時も誰も怒らせないで  
聖ミリャンは四旬節をしに行くでしょう  
そして監督して苦行は増すでしょう
- 193 聖ミリャンは聖なる衣装を身につけ

この水を聖なる手で注ぎました  
そして家全体と全階上階を訪れました  
連禱と詩篇を唱えながら

- 194 裏切り者の客は、閉じこもっていましたが  
嫌々ながら隠れ家から出てきました  
その明らかな裏切り者は立ち尽くしていました  
そのような冗談は心配には値しないと
- 195 彼をよく知っているその勇敢な人は  
その頑固さは彼には何の役にも立たないと言い  
彼をできるだけ苦しめ始めました  
というのは神が自分を裏切ることはないと信じていたからです
- 196 その卑劣な裏切り者は自分が苦しめられているのを見ると  
価値ある証聖者に石を投げ始めました  
その偽りの偽証者は彼を怖がらせようと考えたのです  
しかしキリストの僕<sup>しもべ</sup>は意に介しませんでした
- 197 証聖者は彼を詩篇と連禱で苦しめると  
悪い隣人は出て行き、道につきました  
出て行く時に彼はとても卑劣な事をしました  
その事をあなたたちに話したくありません、恥ずかしいですから
- 198 侮蔑されたオノリオの家は  
すべての汚物からすっかり解放されました

貴重な生活を送っている祝福された司祭は  
戦いに勝って、自分の教会に戻りました

- 199 彼の救いについてあなたたちにお話したい  
神がいかに彼を守り、庇護することを望んだのかを  
その事からあなたたちは常に語り話すすべを知りなさい  
良き信仰がどれだけ人を助けるのかを
- 200 非常な聖性を持ったその神父の家には  
重病の多くの病人がやって来ました  
彼はその人たちに進んで九日間の祈りを捧げて  
神はそれ故に彼らに慈悲と情けをかけていました
- 201 その善人は悪魔つきたちと横たわっていました  
彼らは怒り狂った悪魔たちを抱えていました  
彼らは両目をしっかり閉じて寝ていました  
あたかも千人の男たちに見守られているように
- 202 邪悪な者たちは何度も彼を愚弄しようとしました  
彼を怖がらせるために  
しかし争ったり気持ちを乱したりすることはできませんでした  
そして彼を害するには何の役にも立ちませんでした
- 203 こう言ったことを愚かな悪魔達はしました  
会合で悪いことを教え  
会議を立ち上げ法律を作り

何らかの理由でこの聖人を破滅させるために

## 204 集まった時に規則を検討し

忘れていた悪習を復活させることを

良きキリスト教徒達の心を欺くことによって

そして信徒たちと聖職者たち未婚の者も既婚の者の心も欺いて

## 注

- 1) 聖ミリアンの師
- 2) エプロ川の大岩
- 3) 新約聖書マタイによる福音 6:3「施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない」から「善行を密かに行っていた」の意であろう
- 4) スペイン北部の地方
- 5) ソリアとサラゴサの間にある山脈の一画
- 6) サラゴサの近くの町
- 7) ベルセオの教区の教会
- 8) Lucifer の下の位の悪魔
- 9) ブルゴスの町
- 10) サラゴサの司教聖ブラウリノのこと
- 11) peña real であるが何を指しているのか不明
- 12) 金銀の重量単位で1マルコは約230グラム
- 13) 不明の地名

## 参考図書・辞書

- BIBLIOTECA CASTRO OBRAS COMPLETAS DE GONZALO DE BERCEO Madrid 2003
- The Collected Works of Gonzalo de Berceo ACMRS Arizona 2008
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfósipolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian J.Cody The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001

Diccionario de la Lengua Española Real Academia Española Espasa 2001

スペイン語大辞典 白水社 2015